

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社ウィル グループホームたんぼぼの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県大島郡徳之島町亀津122番地2
記入者名 (管理者)	櫻木 エミ子
記入日	平成 20 年 10 月 30 日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	これまでの「ゆっくり、のんびり、楽しく」という 理念に、「家庭的な雰囲気の中で」と「地域との交 流を働きかけていきます」という言葉を明記し、 地域の中で安心して生活することを支えるケアを 目標としていることを謳った理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内のよく目に付く所に掲げている。 理念を理解し意識してケアを行うことはある程度 できてきていると思う。運営推進会議で地域の催 しや行事等の情報をもらい、利用者の希望を聞き ながら毎月外出計画を立て、地域との交流の機会 を作る等、理念の実践に向けて取り組んでいる。	○ 新入職員に対しては理念の説明が十分に 行われていなかった。職員全体で理念に ついて話し合う機会を定期的にもうけて いきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や入居契約時は、理念を説明し、取 り組みを紹介して理解と協力をお願いしている が、日頃から家族や地域に対して、理念を繰り返 し伝えていくという取り組みはできていない。	○ ホームの行事や地域のイベント等への参 加時、ホーム見学の方に対して等、折に 触れて理念を説明しグループホームへの理解 を得られるよう取り組んでいきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をか け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	いつでも遊びに来て下さいと地域の人に声掛けを 行っている。近所の方から手作りのお茶菓子を頂 き、野菜をおすそ分けしたりと交流は少しずつ増 えている。ホームの行事や避難訓練等に参加して いただいている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りやイベントには積極的に参加している。 中学校の生徒会が行っているﾌﾞﾙｯﾌﾞ集めを応援する形 で、利用者家族にも呼び掛けてﾌﾞﾙｯﾌﾞを集めており、 生徒達が回収に来た時が利用者との交流の機会となっ ている。小学生の社会学習の受け入れ、保育園の運動 会の見学、婦人会のｶﾞｯﾌﾞ大会への参加等行っている。	○ 地域との交流の機会を増やしていけるよ う取り組みを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	徳之島グループホーム連絡協議会で講師を招いて認知症を多くの人に理解してもらうための講演会を行った。在宅介護をしている地域の方から認知症の相談は受けることはあるが、事業所独自の取り組みはできていない。	○  多くの人に認知症を理解してもらう取り組みとして、実習生の受け入れはすぐにはできない体制にあるため関係機関に要望し行っていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて取り組んでいる。自己評価の全項目を職員全員で話し合い評価するという取り組みはできていない。	サービス評価を事業所の質の向上に生かしていけるよう、全職員で話し合いながら、計画的、継続的に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議での内容について経過報告し、現在取り組んでいる内容について意見をもらい、サービスの向上に活かしている。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修に関すること、入所判定時の相談等日常的な相談やホームの現状報告等を行い助言を受けている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	退所して自宅に戻った方に、金銭管理の支援が受けられるよう、制度の紹介や契約までの支援を行った。現在必要なケースはないが、必要性が生じたときはその都度支援していきたい。	○  職員全員が制度を理解し必要な利用者への支援ができるよう、研修会に参加するなど学ぶ機会を作っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の高齢者虐待防止関連法に関する研修会などへの参加はできていないが、常に利用者本位の介護、利用者のペースに合わせた介護を、全職員で話し合っていることで、虐待の防止に繋がり、サービスの質も保たれていると思う。	○  勉強会、研修会等に参加し学ぶ機会を作っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解りやすい言葉で説明し、事業所で行っている取り組みを紹介したり、事業所でできないこと、どうしても防ぎきれない事故がありえること等を説明して理解を得ている。不安や疑問を表現しやすいような声掛け、雰囲気作りを心掛けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から思いを察する努力をし、利用者がいつでも思いを表現できるような環境づくりを心掛けている。利用者の不安や意見はミーティング等で話し合い全職員で改善に向け取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホーム便りに、その人の表情がよくわかる写真をのせ担当職員からの状態報告と、病院受診の内容や小遣い銭の収支報告等を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が、どんな事でも気軽に話しやすいよう、日頃の関わりや雰囲気づくりに心掛け、気付いた事は何でも教えてくださいと常に声をかけている。意見や要望はミーティングで話し合い、日頃の介護や運営に活かしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方法や利用者の受け入れ等、その都度職員と話し合い、意見を反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務シフトは希望を入れ週休2日となるように組んでいる。緊急時や職員の休みの希望が重なった時などは、応援してくれる人の確保もできている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所の都合により職員が移動したことはなく、今後も利用者への影響を考慮しながら職員配置を行っていきます。新しい職員が入った場合は、利用者と家族に紹介している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	島内での研修にはできるだけ多くの職員が受講できるようにし、島外の研修は順番に参加させている。ミーティングで研修報告をしてもらい、全職員が共有できるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、大島地区の連絡協議会に加盟しており研修会や相互訪問等を行っている。運営に関する情報交換や相談をするなどの日頃の交流もあり、相互のサービスの質向上に協力し合いながら取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の希望を取り入れた勤務表作りをしている。休憩時間は、自由に過ごす時間として確保しており、外出したり休憩室でお茶を飲むなどで気分転換できるように配慮している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も勤務シフトに組んでおり、職員と同じ立場で利用者として過ごし、職員とコミュニケーションを図っている。資格取得に向けた支援も行い、やりがいや向上心をもてる職場環境づくりに配慮している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に面談を行い、在宅での生活状況や心身の状態を把握できるように努め、利用者が安心して過ごせるような環境を整えてからサービスの利用開始ができるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	在宅介護で家族が困っている事、本人に対する家族の気持ちや考え、事業所に求める事、これまでのサービスの利用状況など、ゆっくり話を聞いている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、必要に応じて地域包括支援センターや地域のケアマネジャーにつなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いつでも見学に来てくださいと声をかけている。本人が納得できるよう家族間での十分な話し合いもお願いしている。本人の馴染みややすい環境づくりは家族と話し合い工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自分で出来る事は自分でしてもらおうという関わり方を職員が共有しており、本人に出来る事を見極めながら支援している。洗濯物を干したり、たたんだり、島唄や昔の歌を一緒に歌いながら過ごす時間も多し。子育てや苦労話し等を聞き職員が教えられ学ぶ事も多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や職員の支援の仕方を細かく伝え、情報交換や話し合いを行うことで、一緒に本人を支えていく関係が築けることが多くなっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族に参加してもらおうなど、より良い関係の継続に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今まで趣味やこだわり、好みなどを家族から聞き取り一人ひとりの生活習慣をできるだけ継続できるような支援に努めている。昔から利用している理容室に行き続けている利用者がいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の仲の良し悪しに配慮して食事の席を決めたり、利用者が孤立しないよう間に入って会話をしたり、良い関係がつかれるよう工夫している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した方も行事に招待したり、利用者と一緒に、施設や自宅に遊びに行ったりして付き合いを継続できるよう取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくり会話をする時間をつくり、本人にとって思いを表現しやすい雰囲気作りを心掛けており、日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情から思いや意向を掴めるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の語りや、家族、知人等の訪問時などに把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、言動や動作から本人の状況を把握し、本人のできること、わかることを発見できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、ミーティングなどで話し合った意見やアイデアを介護計画の作成に活かしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じて本人、家族、職員と話し合い、支援を行っている。現状と介護計画の大きなずれはないが、細かい介護計画の見直しはできていない。ケアの変更を追いかけての介護計画の変更となることもある。	○  介護計画書があつての現場の支援とはまだなっていない部分があるため、職員全員が介護計画の大切さを理解し、再認識する事から再度始めていきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付きや状態変化は、個々のケア記録に記録し、職員間で情報を共有している。記録を基に介護計画の見直し、評価等を行っている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や健康診断受診の介助、理容室の利用支援、外出外泊の送迎等、要望に応じて支援している。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の婦人会に協力をお願いしたり、本人と地域の交流の機会を作っていけるよう努めている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	保険センターで行われる健康サロンに参加していた。地域包括支援センターに利用できるサービスがないか相談したところ、入所しながら他のサービスの利用は難しいとの返事だった。これからも情報収集しながら本人が充実した生活を送れるよう支援していきます。	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	周辺情報や支援に関する相談など協力を得ている。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。通院介助を行ったり、訪問診療を受けている。	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	神経内科や脳神経外科を受診して指示や助言を受けている。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療を受けている病院の訪問看護に相談している。	○ 医療との連携が密に取れるよう、訪問看護ステーションとの契約を検討している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師と話をする機会をもち、ホームでの対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう相談している。病院のソーシャルワーカーや看護師、家族と情報交換しながら、退院支援に結び付けている。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の場合もホームで対応していく方針であることを家族会等で説明している。	○ 医療との連携体制を整えながら、早い段階から本人と家族の意向を確認し、関係者全体で対応方針の共有ができるよう取組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアを行うという方針は決めているが、具体的な取り組みはできていない。	○ 研修会に参加したり、ターミナルケアを行っている事業所から情報を得たりして、重度や終末期の利用者を支援できる体制作りに取り組んでいきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の事業所へ移られた場合、これまでの生活環 境、支援の内容、注意が必要な点について情報提 供し、きめ細かい連携を心掛けている。</p>	
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1)一人ひとりの尊重</b></p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない</p>	<p>さりげない介助を心がけ、尊厳やプライバシーに配慮 しているが、トイレ誘導など人前での声かけに工夫 が必要と思われる場面もある。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり 、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる</p>	<p>利用者に合わせて声を掛け、急がず、本人の意思 を確認しながら支援するよう心掛けている。</p>	<p>○ 職員側で決め行なっていることも多いた め、押し付けの支援になっていないか常 に疑問を持ち、職員全員で話し合いなが ら、複数の選択肢を提供できるよう取り 組んでいきたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている</p>	<p>朝の起床や食事、入浴等本人のペースや希望によっ て支援している。</p>	
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている</p>	<p>なじみの床屋を利用している方がいる。髪結いや 顔そりを介助し、服装や身だしなみが乱れないよ うさりげなく支援している。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>昼食・夕食は職員も利用者と一緒に同じ物を食べ ている。茶碗や箸も本人の使い慣れたもの、好み の物を取り入れている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒の好きな利用者には、本人の様子を見ながら楽しめるよう支援し、コーヒーなど飲み物は希望した時にいつでも飲めるよう支援している。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の要望があれば毎日いつでも入浴が出来る対応をしている。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	必ず自室で休むのではなく、地域交流室のソファや廊下の長イス等、本人の好みの場所で自由休めるように支援している。	
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝い・洗濯物たたみ・洗濯干し等その日の状態を見ながらできる事をしてもらっている。島歌や昔の歌を歌ったり、踊ったりその時々で利用者の様子を見ながら楽しみや気晴らしとなる支援を行なっている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い銭は事務所で管理している。近所のコンビニへ出掛けられる人は、希望した時にお金を渡し、好きな買い物ができるよう支援している。	


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材等を買いにスーパーに同行してもらったり、「どこどこに行きたい」と希望がでたときは、他の利用者も交えてドライブに出かけたり随時行なっている。季節を感じてもらえるよう、お花見やみかん狩り、地域の祭り等戸外へ出ることを積極的に行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との面会や自宅への外出などの希望があり、ゆっくり時間をとって外出支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いたときなど、お礼の電話を促し支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも都合のいい時間帯に訪ねて来てもらえるよう、面会時間は定めておらず、「いつでも遊びに来て下さい」と声かけをしている。面会に来られた時は、お茶を飲みながらゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容と弊害を認識しており、ミーティングなどで話し合い、環境を工夫して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊があっても鍵をかけず、自由に安全に過ごしてもらうにはどのように対応したらよいかをミーティング等で話し合い、見守りや居場所の確認、さりげなく声をかけ一緒について行くなど、鍵をかけない工夫を行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全 に配慮している	昼夜共に職員が利用者を見守りやすい位置にい て、業務をしながら利用者の状況を把握するよう に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 組みをしている	安全に使える方法を検討し、利用者の状態変化に よって注意を促すなど、ケースに応じて対応して いる。利用者の状態を十分に把握しながら危険を 防ぐために、洗濯洗剤等夜間は保管場所を変えて いるものもある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた 事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤハットを記録し、予測される危険を検討 し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでい る。事故が発生した場合には速やかにヒヤハット・事 故報告書を作成し、事故原因の予防対策について 検討し、家族への説明と報告も行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職 員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っ ている	緊急時対応についてマニュアルを作成し、各症状 に対する対応等消防署の協力を得ながら行ってい る。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わ ず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろ より地域の人々の協力を得られるよう働きかけ ている	火災・地震を想定した避難訓練を行い、消火器の 使用方法等の基本的な事から、身の回りの物を 使った避難方法等を消防署の協力を得ながら行っ ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族 等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした 対応策を話し合っている	家族には面会にこられた時に状態を説明し、対応 策を話し合いホームでの取り組みに理解を得てい る。こられない家族にも便りを出すなどで普段の 様子を知ってもらうよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日誌には昼夜共にポイントが把握できるよう記録し、全職員で共有している。毎朝の申し送りで、小さな変化や気付きなども意見交換をしている。ケアチェック表を作り、排便・体温・血圧・入浴状況等記入しています。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明カードを各自のファイルに綴じ、職員が内容把握できるようにしている。服薬は利用者に合わせた介助を行い、きちんと服用されているか確認している。薬の処方・用量が変更されたり、本人の状態変化が見られたら、各自のファイルに詳しく記録し、医療機関と連携を取れるようにしている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を豊富に取り入れた食事作り、好みや要望に合わせた乳製品を取り入れている。家事活動などで体を動かす機会を設けてなるべく自然排便ができるよう取り組んでいる。排泄チェックを行い、排便の無い日が続くようであれば処方された下剤を利用する事もある。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を全職員が理解しており、食後は一人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援を行っている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を職員全員が常に意識しながら関わり、摂取量の少ない場合は、介護日誌に記録し、情報を職員で共有して支援に繋げている。一人ひとりの好みや苦手なものを把握し、美味しくバランス良い食事が摂れる様、献立を工夫している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症についてのマニュアルを作成している。地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。日頃から手洗いを徹底し、予防に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは漂白し、調理器具、台所の清潔・衛生を保つよう全職員で取り組んでいる。食材の残りの点検も頻繁に行い、買いだめはせず、2～3日置きに購入している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地域の方の手作りの押し花アートや絵画を飾り、花鉢を置いて明るい雰囲気玄関になるようにしている。玄関ポーチには、椅子とテーブルを置き、お茶を飲んだりゆっくりすごせるスペースを作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周辺の畑や山を眺めることができ、外からの自然の風や音、明かりを感じることができる。音楽も1日中かけ続けるのではなく、その場の雰囲気や利用者の様子を見ながら調整し、音のない静かにくつろげる時間をつくるよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先や玄関、地域交流室にイスやソファを置き、思い思いに過ごせるスペースを作っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物、馴染みの物を持ち込んでもらっている。テレビや仏壇を持ち込んでいる方もおり、本人が心地よく過ごせるよう環境作りを工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	自然の風が入る環境にあり、網戸を取り付け常に換気ができている。ポータブルの洗浄や拭き掃除を毎日行い悪臭がでないよう取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活を送れる ように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや居室の家具の 配置を見直し、安全確保と自立への配慮をしてい る。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	一人ひとりのできる事できない事を見極め、それ ぞれの状況に合わせた環境整備に努めている。 状態が変わった場合は、その都度職員で話し合い、 本人の話を聞きながら、安心して過ごせるよう支 援している。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関ホーチにテーブル、イスを設置し、外を眺め たり、涼んだりしてゆっくり過ごせるようにしてい る。畑も広く、利用者、家族、職員で野菜の収穫 や手入れを、楽しみながら行っている。	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「ゆっくり、のんびり、楽しく」を理念に掲げ、利用者に心地良く楽しく過ごしてもらえよう、一人ひとりのペースに合わせた介護を職員全体で話し合い実践しています。職員が利用者の側と一緒に過ごすことで、利用者の思いや意向を理解し、小さな変化にも気付き安全な環境を作れるよう努めています。できる力を引き出せるよう、職員はゆっくり見守りながら、利用者本意の介護に取り組んでいます。いつもうれしい、楽しい気持ちでいてもらえよう、みかん狩りに出掛けたり、お祭りや運動会を見物したり、ラーメンやホテルのランチを食べに出掛けたり、時にはカラオケ大会に参加してみたり、島唄を歌い踊り、住み慣れた地域で馴染みの人たちとふれあいながら毎日を過ごしています。